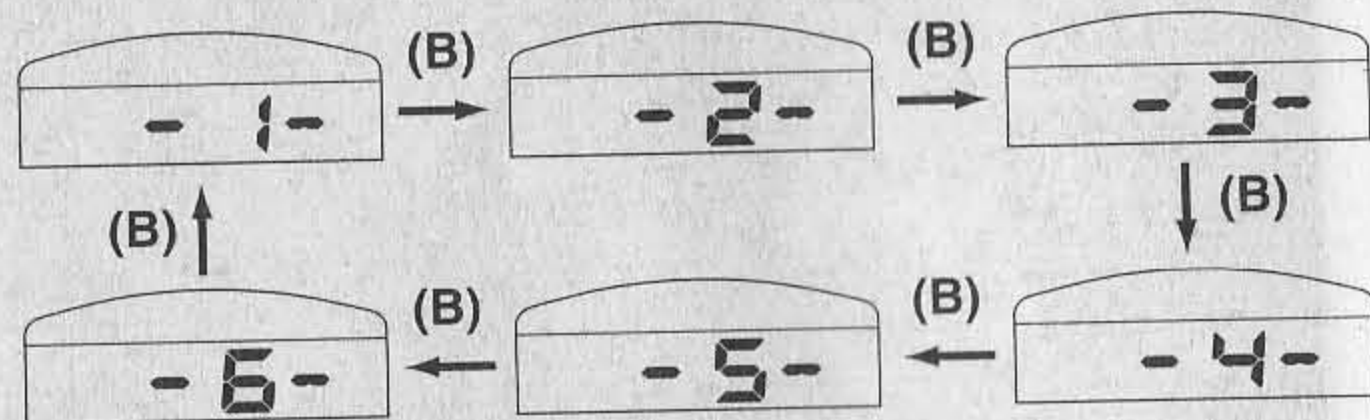
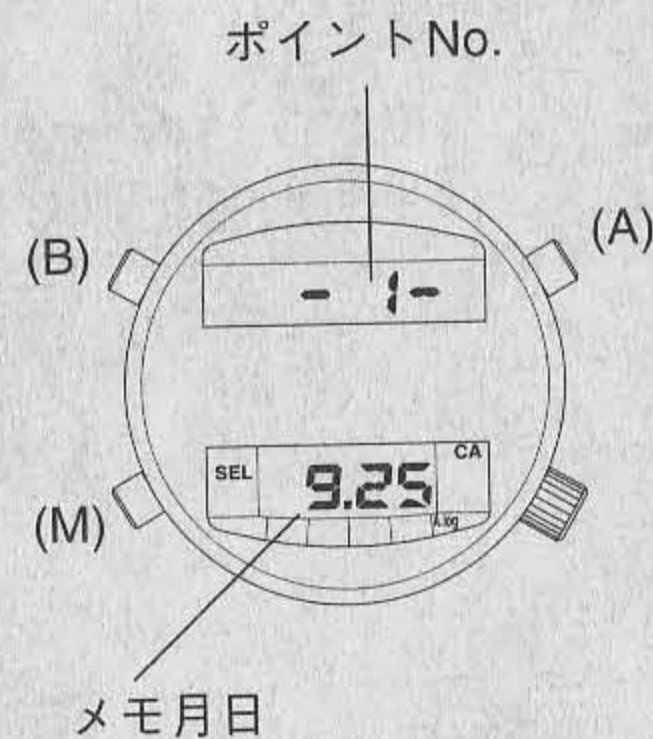


12. 高度メモモードの使い方

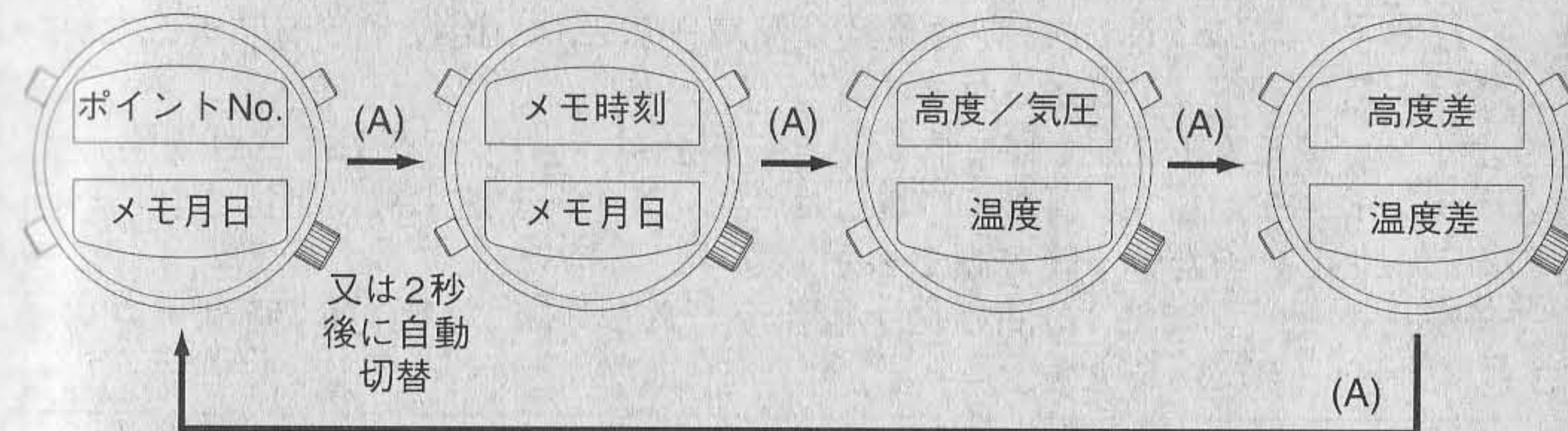
高度計測中にメモした最大6ヶ所のポイントメモ(ポイントNo.、メモ月日、メモ時刻、高度、気圧、温度、前回ポイントとの高度差及び温度差)を呼び出し表示できます。

A. ポイントメモの呼び出し

- (1) (M) ボタンを押して高度メモモードにします。
- (2) (B) ボタンを押す毎に古いポイントメモ(No.1)から順番にポイントNo.を切り替えます。



- (3) (A) ボタンを押す毎に次の順で表示が替わります。1ポイント分のメモは、4回に分けて表示されます。



ポイントメモは、6ポイント以上メモできません。
それ以上のポイントメモが必要な場合は、1度全てのポイントメモを消去させた後、改めて高度計測モードでメモを行ってください。

- ・[潜水準備表示]では、デジタル表示は切り替え前の表示を維持します。
- ・[水深計測表示]で(A)ボタンを押している間、「最大深度」と「水温」を表示します。
- ・[水深計測後0m表示]で(A)ボタンを押している間、今回の潜水での「最大深度」と「最低水温」を表示します。

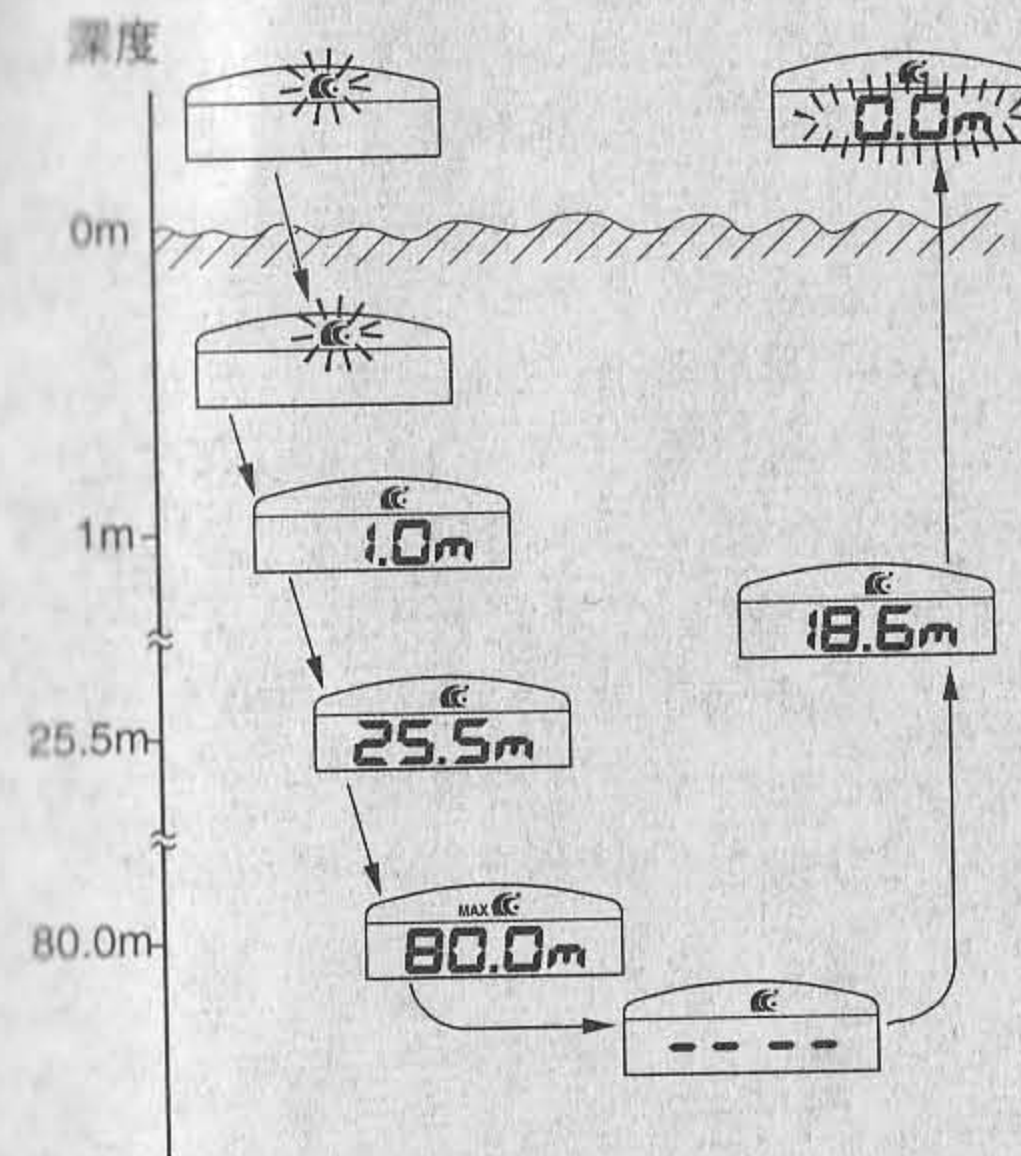
＜水深計測モードの終了＞

- ・[水深計測後0m表示]で(M)ボタンを2秒以上押し続けると、サーフェースモードまたは、時刻・カレンダーモードに戻ります。
 - ・[水深計測後0m表示]で約10分間経過すると、自動的にサーフェースモードまたは、時刻・カレンダーモードに戻ります。
- 10分以内に再度1m以深に潜水した場合は、[水深計測表示]になります。



潜水終了後は、必ず水感知センサーの水分を良く拭き取ってください。水感知センサーが濡れている状態で水深計測モードを終了すると、[標準モード]に戻った後も「CHEK」が表示されます。「CHEK」表示中は、再度潜水を行っても水深計測モードに切り替わりませんのでご注意ください。

A. 水深計測表示について



水深計測は毎秒行ない、そのときの深度を計測表示します。

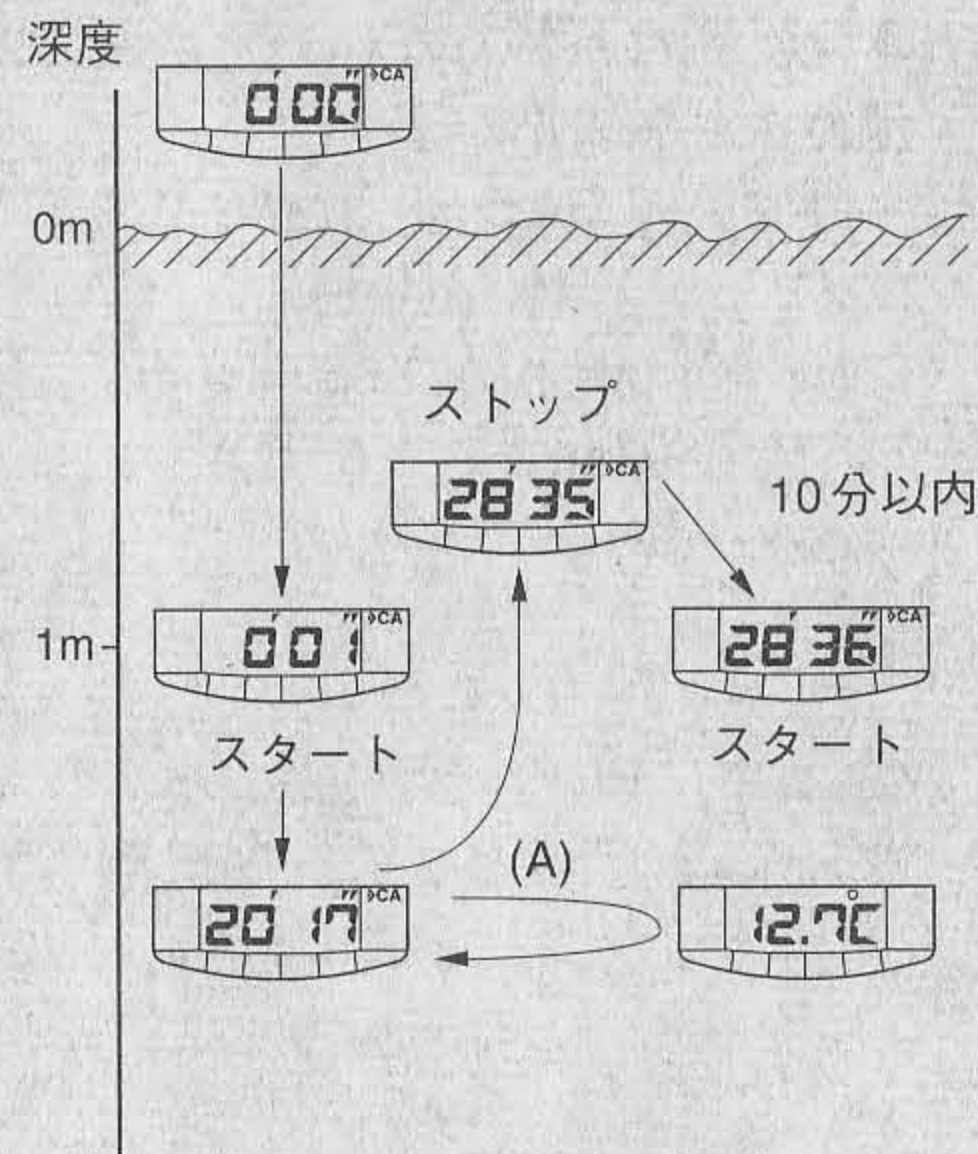
- ・計測範囲：1.0m～80.0m
(0.1m単位)

*水深1.0m未満のとき：0.0m表示

*水深80.0mを越えたとき：
---表示

*潜水中にER(エラー)が表示された場合は、そのときの深度計測に異常があったことを示します。

B. 潜水時間計測について



水深が1.0m以深になると、自動的に潜水時間計測がスタートして、再び水深1.0m以浅になると潜水時間計測がストップします。ただし、潜水時間計測がストップしてから10分以内に再び水深1.0m以深になった場合は、潜水時間はストップ時点から継続して計測表示されます。

・計測範囲：0分00秒～99分59秒
(1秒単位)

* 100分の計測を繰り返します。

C. 水温計測について

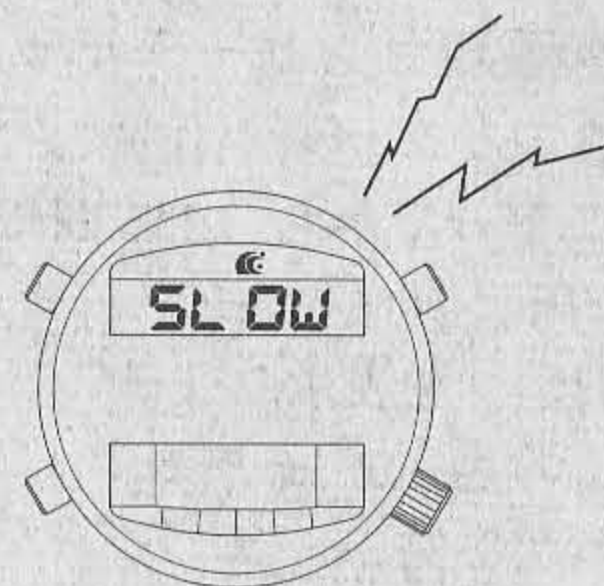
深度が1.0m以上になると、その1分後から水温計測を開始します。水温は、水深計測中に(A)ボタンを押している間表示されます。計測範囲：-9.9℃～+40.0℃(0.1℃単位)

D. 水深計測中の各種警告機能について

この時計は、次の3つの警告機能を持っています。安全潜水のための目安としてご活用ください。

<浮上速度警告機能>

潜水中に10秒間で1.5m以上の浮上速度を越えると、浮上速度警告としてアラームが鳴ります。浮上速度警告アラームが鳴っている間は、デジタル表示に「SLOW」を表示します。アラームは適正な浮上速度になるまで鳴り続けます。



20. 電池について

＜電池寿命について＞

この時計の電池寿命は新しい電池を組み込み後約2年です。

使用条件の目安

アラーム：15秒／日

温度計測：3分／日

水深計測：50回／年(1時間／1回)

高度計測：100回／年(連続高度計測：10分、一定時間高度計測：8時間／1回)

*アラームなどの各種機能の使用頻度によって、電池寿命は異なります。

＜最初の電池について＞

お買い上げの時計にあらかじめ組み込まれている電池は、機能や性能を見るためのモニター用電池です。

お買い上げ後、2年に満たないうちに電池寿命が切れることがありますのでご了承ください。

＜電池交換について＞

- ・電池交換はすべて「シチズンサービスセンター修理」となりますので、お買上店を通して、または直接シチズンサービスセンターにご依頼ください。
- ・電池交換の際は、防水検査などのチェック及び、必要に応じてパッキング類の交換も実施します。
- ・電池交換により、ログメモや高度メモなど全てのデータが消えてしまいますので、必要なデータはあらかじめ別の所に記録しておいてください。
- ・電池寿命切れの電池をそのままにしておきますと、漏液などにより故障の原因となります。早めに電池交換を依頼することをおすすめします。
- ・海外で長期間使用する場合は、場所によっては旅行先でアフターサービスが受けられない場合がありますので、お出かけ前に電池交換やメンテナンスを行っておくことをおすすめします。
- ・電池交換及び、それに伴い生じる検査・部品交換は、保証期間内でも有料となります。



サーフェースモード作動中の24時間以内に[高度計測モード]に切り替えると、最初に「SF.ck」が10秒間表示された後、[高度計測モード]に切り替わります。これは、潜水後間もなく高所に移動すると減圧症などの危険があるため、「潜水後に十分な休息がとられたかどうかの確認」を促す表示です。

15. 高度計の基本特性について

この時計は、標準大気*1の条件を基本に、気圧と高度の関係を利用して、気圧の変化から高度を算出するように設計されています。この時計を使用して正しい高度表示を得るためには「高度補正」が必要です。

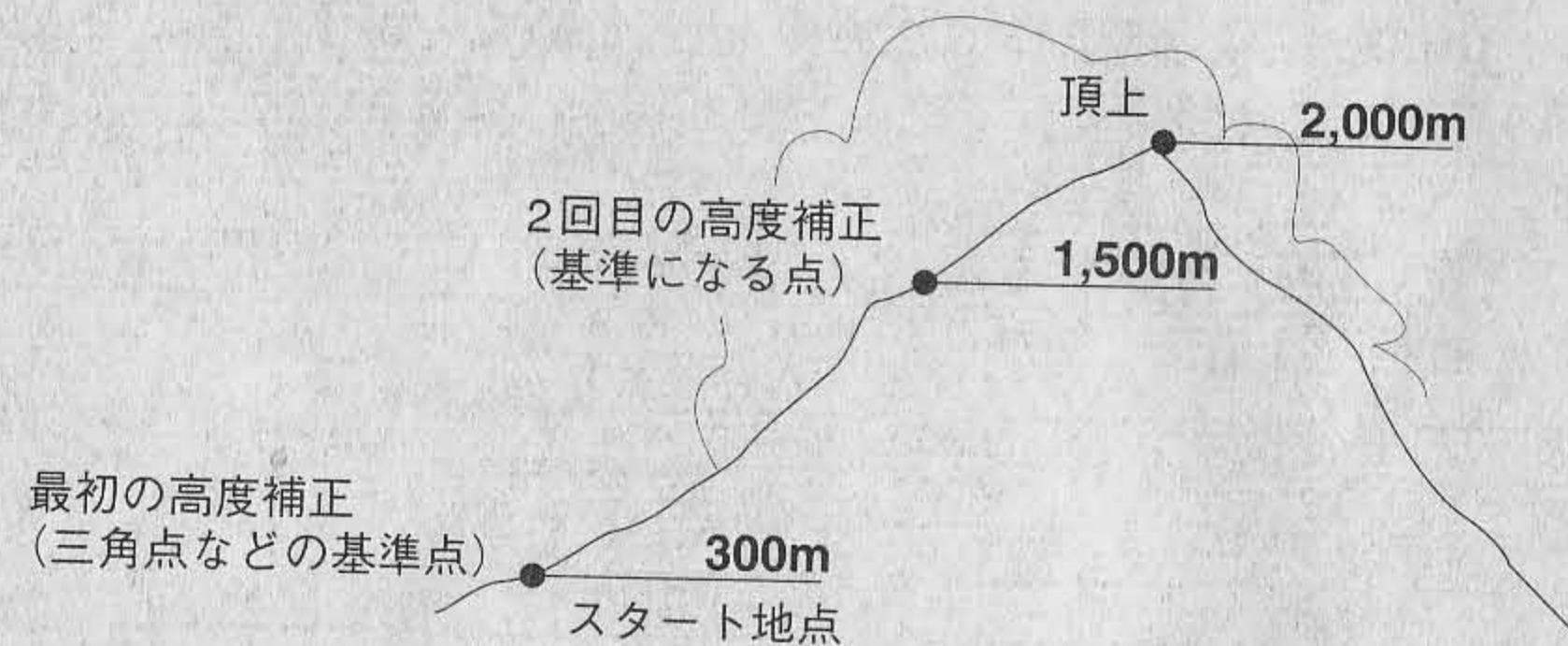
*1：標準大気

1964年に I. C. A. O (国際民間航空機関) が採用した「I. C. A. O 標準大気」をいい、1013.25hPa、気温15℃を海拔0mと定めています。実際の大気の状態は、同一の場所でも時間によって絶えず変化しています。

気圧(hPa)	高度(m)	気温(℃)	1,000mあたりの気温差
540.2	5,000	-17.5	約6.5℃
616.4	4,000	-11.0	
701.1	3,000	-4.5	
795.0	2,000	2.0	
898.7	1,000	8.5	
1013.25	0	15.0	

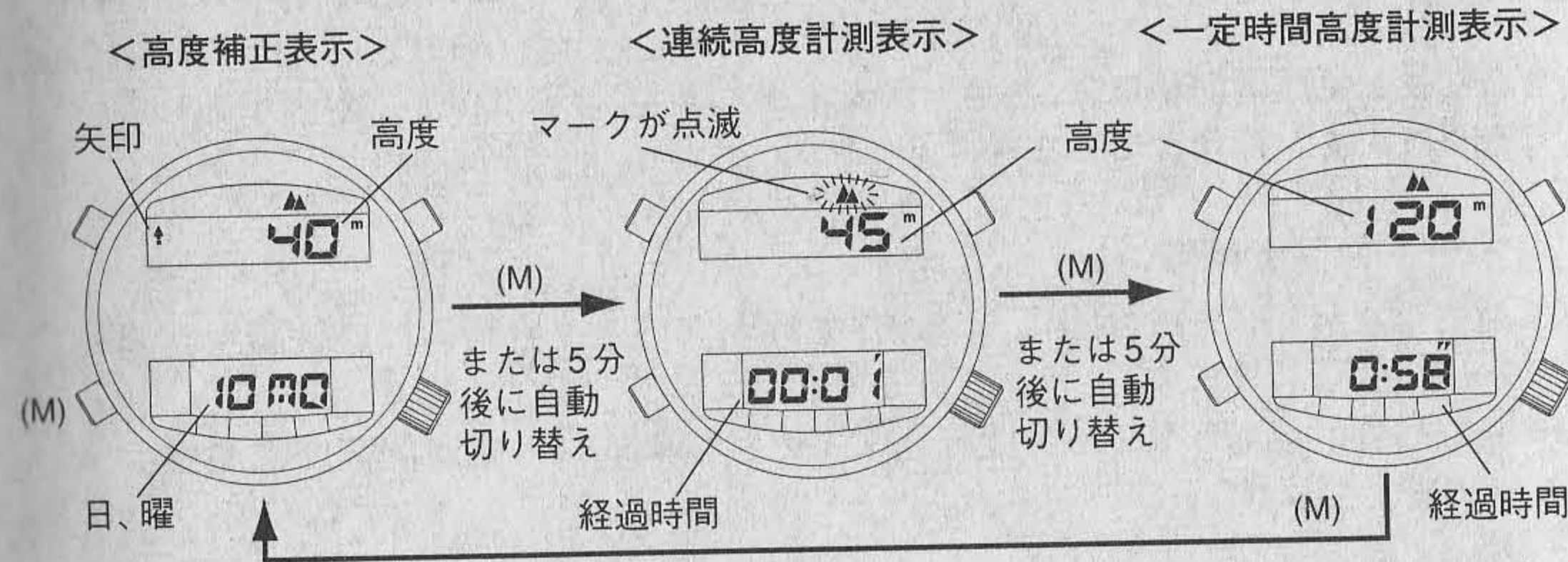
<高度補正について>

登山時などに正しい高度を計測するためには、あらかじめ正確な高度の基準となる地点(三角点、一等水準点、正確な地図上の高度など)において、その正確な高度と時計の表示高度を合わせておく必要があります。これを高度補正といいます。気圧が1hPa(1ヘクトパスカル=1ミリバール)変化すると、時計の表示高度も約10m程度変化しますので、登山中に大きく天候が変化するような時には1日に数回の補正が必要です。



16. 高度計測モードの使い方

標準モードの各モード(クロノグラフの計測中を除く)で、(M)ボタンを2秒以上押すと、高度計測モード(高度補正表示)に切り替わります。高度計測中は高度と高度計測を開始してからの経過時間を表示します。また、ボタン操作で、最大6つのポイントの高度や気圧、時間などをメモできます。



高度計測モードは、次の3つの表示で構成されます。

(M) ボタンを押す毎に前ページの順番で表示が替わります。

高度補正表示……………高度計測前や測定途中に、実際の正確な高度と時計の表示高度を補正することができます。

連続高度計測表示……………1秒毎に連続して5分間、高度を計測表示します。連続した高度変化を見ることができます。

一定時間高度計測表示……………経過時間計測の15分毎(00分、15分、30分、45分)に高度を計測表示します。

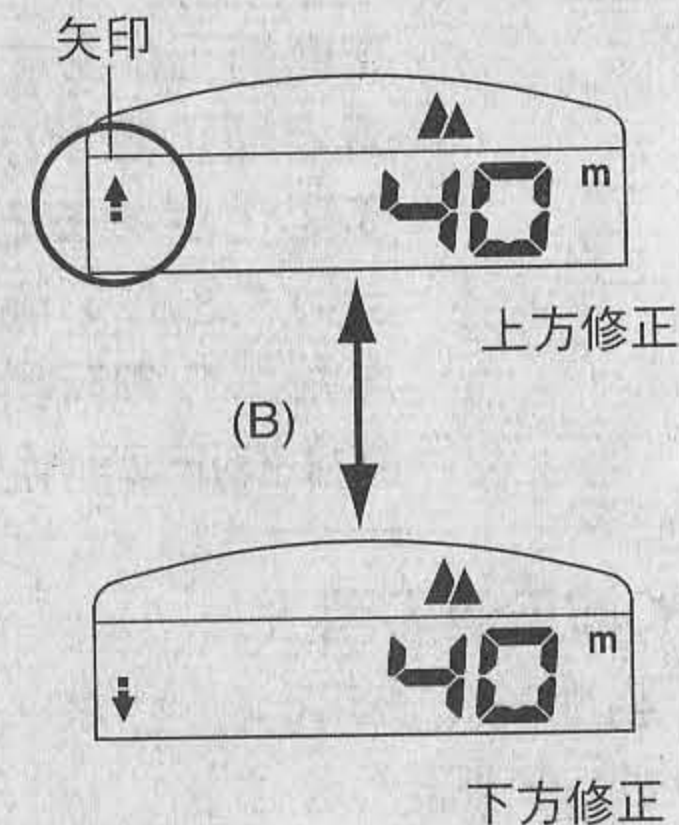
* 高度及び気圧計測中は、「----」が表示されます。尚、「----」が表示されている間はボタン操作はできません。

<オートシフト機能>

- ・ 高度補正表示で約5分間ボタン操作を行わないと、自動的に連続高度計測表示に切り替わります。
- ・ 連続高度計測表示で約5分間経過すると、自動的に一定時間高度計測表示に切り替わります。

A. 高度補正方法

- (1) 高度補正表示で(B)ボタンを押す毎に、補正方向(上方修正または下方修正)を切り替えます。矢印が上向きの際は上方修正、矢印が下向きの際は下方修正できます。
- (2) (A)ボタンを押して高度を修正します。
(A)ボタンを押す毎に5mずつ修正され、ボタンを押し続けると早修正します。



* 高度補正範囲：-300m～+6300m (5m単位)

測定した高度が高度補正範囲を超えている場合は、「----」が点灯します。この表示中は、(A)ボタンを押しても高度補正できません。

* 高度補正後は、この補正值を基準として高度計測を行います。この補正值は、次に高度補正を行うまで維持されます。



高度補正は必ず高度変化のない場所で行ってください。
高度補正表示中は高度測定は行われなない為、高度補正表示中に高度変化があると、実際の正しい高度と時計の表示高度がずれてしまい、正しい高度測定ができません。
また、この時計の高度及び気圧測定は温度の影響を受けますので、高度補正は測定を行う温度環境になじませてから行ってください。

＜補正值の消去＞

「高度補正表示」で(A)ボタンと(B)ボタンを同時に2秒以上押すと、補正された高度を消去します。

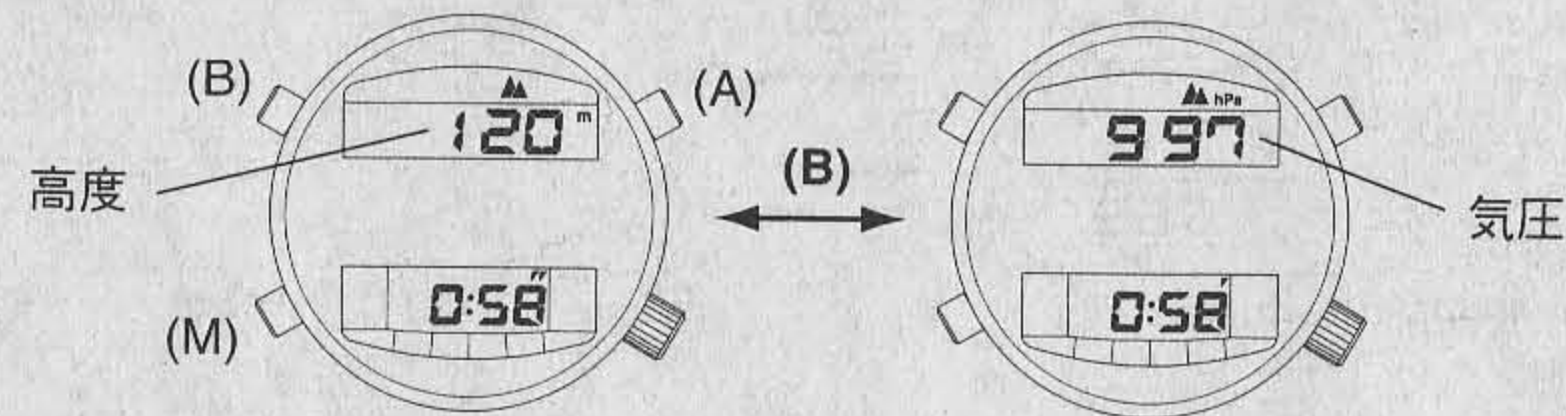
補正值を消去後は、標準大気の状態にあてはめた相対高度を表示します。このときの表示高度は実際の高度とは異なります。

*高度補正表示で「- - - -」が点滅表示している場合は、高度計測または高度補正に異常がある場合がありますので、この「補正值の消去」を試みてください。

B. 連続高度計測及び一定時間高度計測について

＜高度表示／気圧表示の切り替え＞

連続高度計測表示及び一定時間高度計測表示において、(B) ボタンを押す毎に高度表示と気圧表示が入れ替わります。



・高度計測範囲：-300m～+6300m (5m単位)

*計測範囲を超えた場合は、- - - - 表示になります。

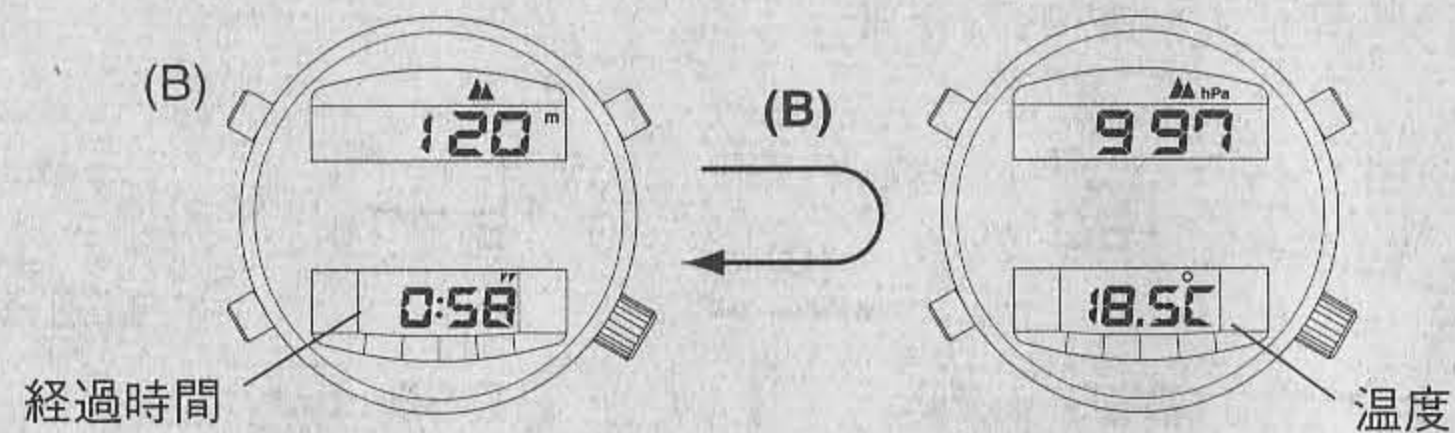
・気圧計測範囲：452hPa～1050hPa (1hPa単位)

*計測範囲を超えた場合は、- - - - 表示になります。

*高度表示中は「m」が表示され、気圧表示中は「hPa」が表示されます。

<温度計測>

一定時間高度計測表示中に(B)ボタンを2秒以上押し続けると、約10秒間温度を表示します。この操作によって高度と気圧の表示も切り替わります。



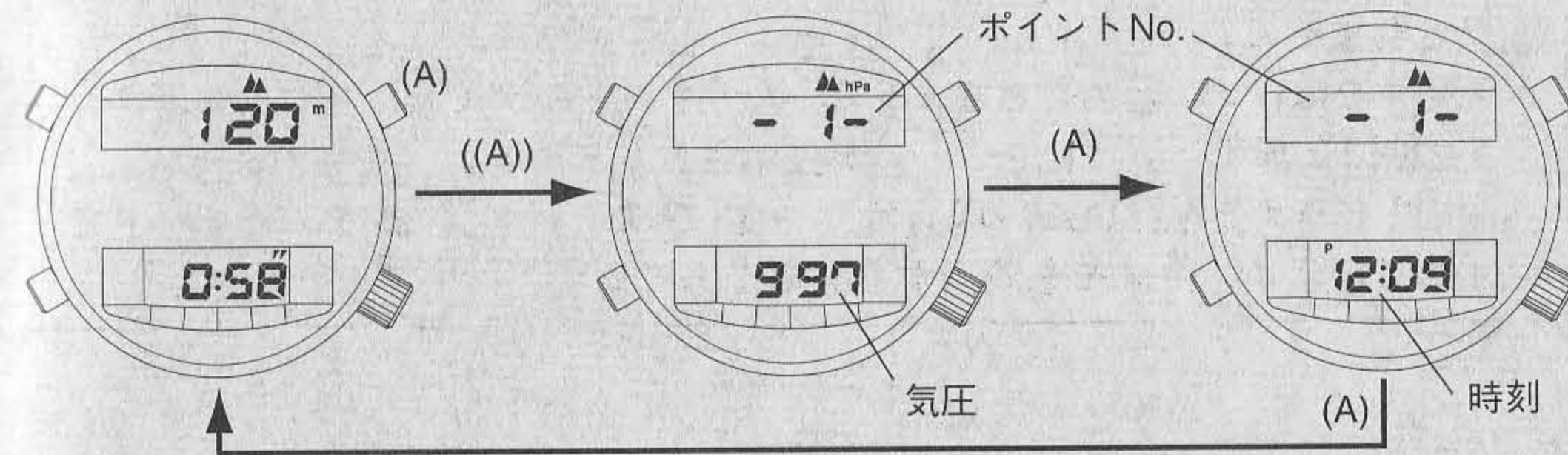
<高度メモの操作方法>

- (1) 連続高度計測表示及び一定時間高度計測表示中に(A)ボタンを2秒以上押します。
確認音が鳴り、そのときの高度や気圧等をメモします。
操作後、10秒間ポイントNo.(P1～P6)と気圧を表示します。

<高度計測表示>

<高度/気圧メモ中>

<時刻メモ中>



- (2) ポイント(P1～P6)及び気圧表示中に再度(A)ボタンを押すと、そのときの時刻をメモします。
操作後、10秒間ポイントNo.(P1～P6)と時刻を表示します。
- (3) 「ポイント(P1～P6)」及び「時刻」表示中に(A)ボタンを押すと高度計測表示に戻ります。

* (1) または (2) の操作後、約10秒間ボタン操作が行われないと、自動的に高度計測表示に戻ります。(2) の操作が行われなかった場合は、「時刻」はメモされません。

* 高度メモは6つ以上メモできません。6ポイントのメモ後、更に(A) ボタンを2秒以上押すと、「FL」と「---」が表示され、データはメモされません。6つ以上のメモを行いたい場合は、一度[標準モード]の高度メモモードですべてのポイントメモを消去する必要があります。

<経過時間計測>

連続高度計測表示及び一定時間高度計測表示において、高度計測を開始してからの経過時間を計測表示します。

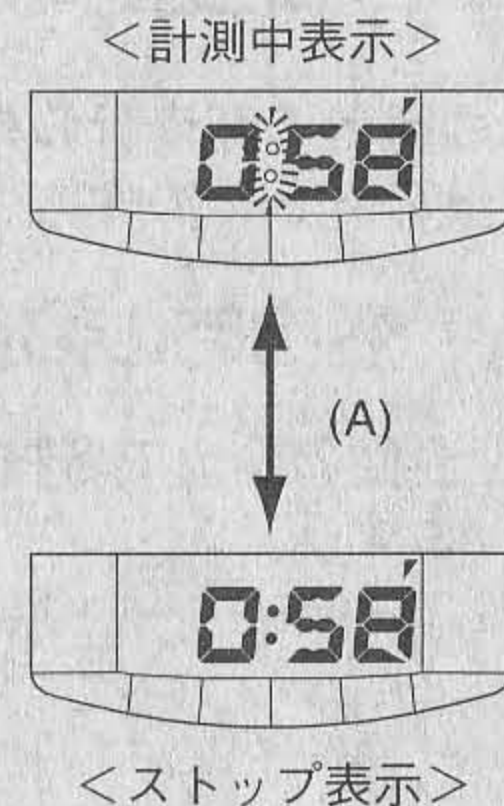
経過時間計測は、最初に連続高度計測表示に切え替えたときに自動的にスタートします。

経過時間の計測中に(A) ボタンを押す度に確認音が鳴り、経過時間を一時停止、再スタートすることができます。

*経過時間を計測中はデジタル表示[2]のコロン(:)が点滅し、計測をストップするとコロンが点灯します。

・経過時間計測範囲：0時間00分～23時間59分(1分単位)

*24時間の計測を繰り返します。



17. 高度計の具体的な使い方について

この時計の高度計の具体的な使い方の例を紹介します。

時計の詳しい操作方法については各機能の使い方の説明をお読みください。

A. 登山時の高度を計測する場合

1. 今回の登山で各種データを記録するために、前回の高度メモを消去しておきます。

- (1) (M) ボタンを押して[標準モード]の高度メモモードにします。
- (2) (A) ボタン及び(B) ボタンを押して、前回の登山時に記録したメモを呼び出します。

ここで必要なデータを別途記録しておきます。

(3) (A) ボタンと(B) ボタンを同時に押して全ての高度メモを消去します。

2. 登山の前に、より正確な高度計測を行うための準備を行います。

- (1) (M) ボタンを2秒以上押して[標準モード]から[高度計測モード]に切り替えます。
- (2) 高度補正表示で、(A) ボタン及び(B) ボタンを押して、三角点などの正確な高度表示と、時計の表示高度を合わせます。

3. 高度計測を開始します

(1) 高度補正表示で(M) ボタンを押して連続高度計測表示に切り替えると、高度計測及び経過時間計測が自動的にスタートします。

(2) 登山中は、高度計測表示(連続高度計測表示または一定時間高度計測表示)にしておくとし、常に高度と経過時間を表示します。

高度計測中、(B) ボタンを押す毎に、高度表示と気圧表示が切り替わります。

4. 途中のチェックポイントで高度や時刻などをメモします。

(1) 高度計測表示で(A) ボタンを2秒以上押すと、1つめのメモを表わす「- 1 -(ポイント No.)」が表示され、その地点の高度や気圧、温度などのデータをメモします。

(2) 再度(A) ボタンを押して、時刻をメモします。

(3) (1)、(2)と同様の操作で最大6ポイントまでメモできます。

5. 頂上に到着したので高度計測を終了します。

(1) 高度計測表示で(A) ボタンを押して経過時間計測をストップします。

目標到着時のデータをメモしたい場合は、メモ操作(4.-(1)、(2))を行います。

(2) (M) ボタンを2秒以上押して[標準モード]に戻します。

この操作で高度計測を終了します。

B. 登山以外での使い方の例

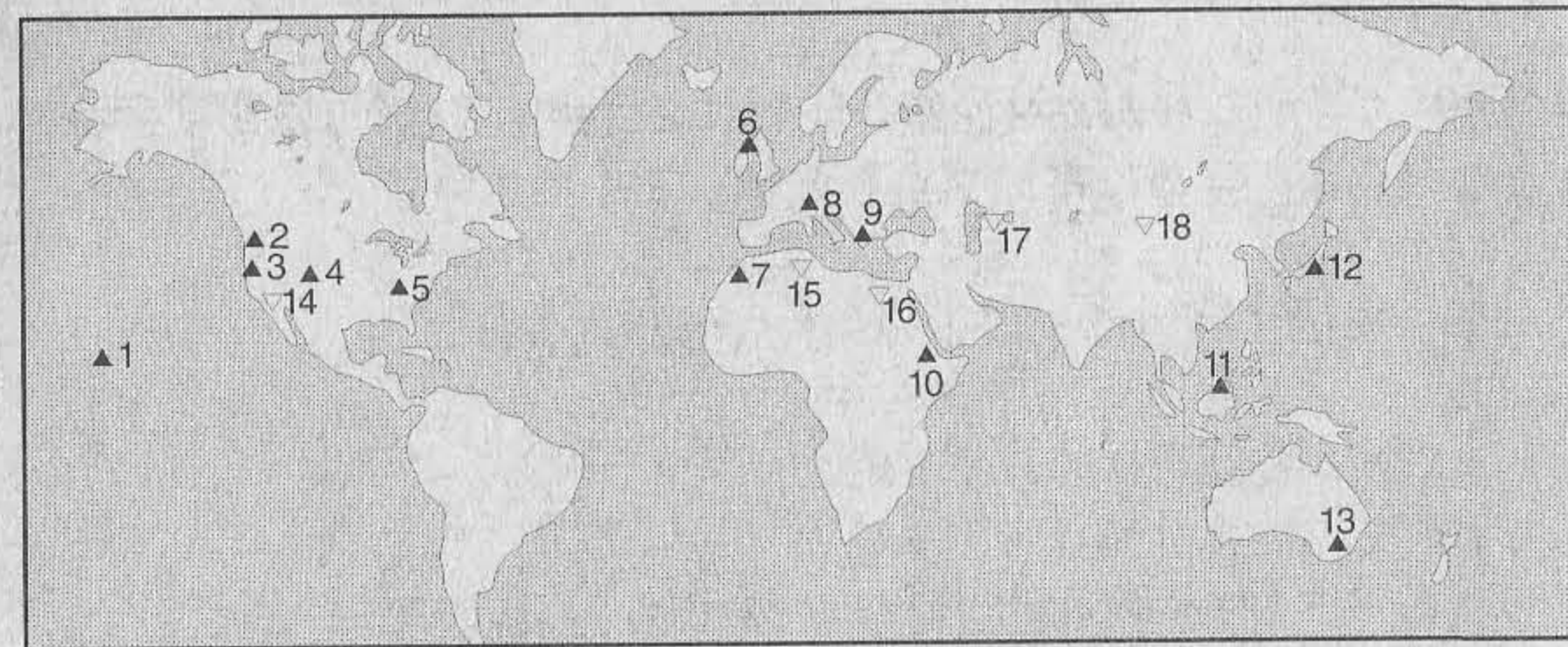
<変化する高度を見たい場合>

登山電車、ケーブルカーなどに乗っている間に、[高度計測モード]の連続高度計測表示にします。1秒毎の高度変化を最大5分の間、目で追うことができます。

<出発点からの高度差を知りたい場合>

高度補正表示で、0mに修正してから高度計測を行います。
到達点で表示された高度をそのまま高度差として読み取ることができます。

C. 世界の主な高山と低地（参考資料）



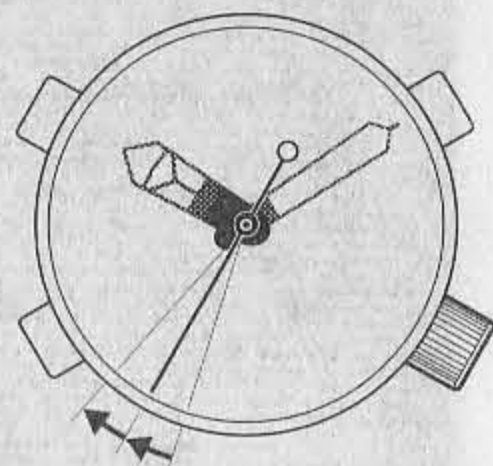
▲1 マウナケア山 (アメリカ合衆国) 4,205m	▲2 レーニア山 (アメリカ合衆国) 4,392m	▲3 シャスタ山 (アメリカ合衆国) 4,317m	▲4 エルバート山 (アメリカ合衆国) 4,398m	▲5 ミッチェル山 (アメリカ合衆国) 2,037m	▲6 ベンネビス山 (イギリス) 1,344m
▲7 ツブカル山 (モロッコ) 4,165m	▲8 マッターホーン (スイス) 4,477m	▲9 オリンボス山 (ギリシャ) 2,917m	▲10 ラスダシャン山 (エチオピア) 4,620m	▲11 キナバル山 (マレーシア) 4,094m	▲12 富士山 (日本) 3,776m
▲13 コジウスコ山 (オーストラリア) 2,230m	▼14 デスバレー (アメリカ合衆国) -85m	▼15 メルリル湖周辺 (アルジェリア) -24m	▼16 カッターラ低地 (エジプト) -133m	▼17 カスピ海周辺 -28m	▼18 ツルファン (中国) -154m

18. 電池寿命予告機能について

電池寿命が近づくと、秒針が2秒運針(2秒に2目盛ずつ運針)に切り替わります。このような場合は、早めに電池交換を依頼してください。

電池寿命予告機能作動中は、以下の条件で機能が制限されます。

- ・アラームや操作確認音は鳴りません。
- ・時刻モードでの温度計測はできません。
- ・水深計測モード(潜水準備状態含む)への切り替えはできません。水深計測中にこの状態になった場合は、その回の潜水終了までは水深計測を継続しますが、ダイビングアラームや潜水時間アラームは鳴りません。
- ・高度計測モードへの切り替えはできません。連続高度計測中にこの状態になった場合は、一定時間高度計測になります。



19. その他の機能

A. ボタン機能表示

この時計は、(A) ボタン及び (B) ボタンの働きをマークで示す機能をもっています。

<マークの意味>

>> : 「ボタンを2秒以上押す」ことを表わします。

SEL : 表示内容や修正箇所を切り替えます。

SPL : スプリットタイムを計測表示します。

RES : クロノグラフ計測をリセットします。

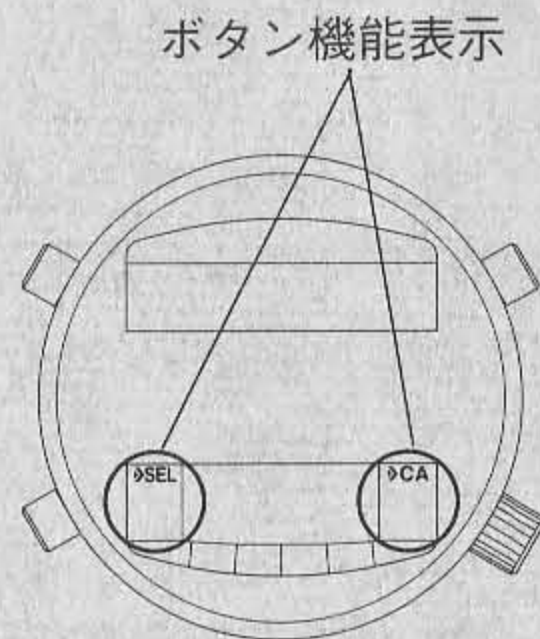
CA : 各種表示を呼び出します。

SET : 表示を修正します。

STA : クロノグラフがスタートします。

STP : クロノグラフがストップします。

* ボタン機能表示は、全ての条件でのボタンの働きを表示するものではありません。あくまでも取り扱いの補助としてご利用ください。



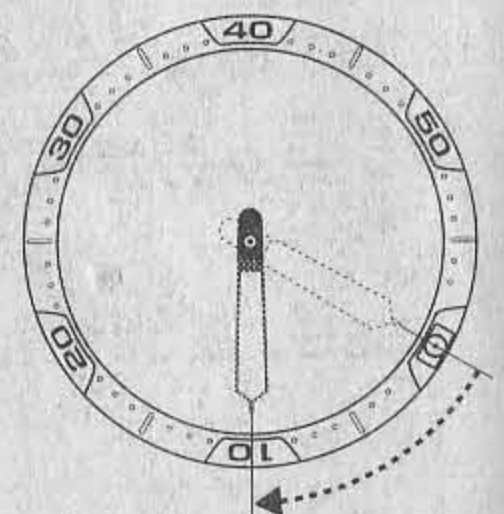
B. 回転ベゼル

回転ベゼルとは、時計本体のまわりについている回転リングの部分を行います。
ダイビング中の経過時間を測定することができます。

<回転ベゼルの使い方>

潜水を開始する前に回転ベゼルの左回転させて▽マーク（ゼロマーク）を分針に合わせます。以後、分針の示す回転ベゼル上の目盛を読めば経過時間がわかります。

例) 右図では潜水を開始（▽マーク位置）してから10分が経過したことを示します。



経過時間10分

⚠ 注意

- ・ 回転ベゼルは誤動作防止のため反時計方向にだけ回転させることができます。無理な力で時計方向に回転させようとすると回転ベゼルの破損になりますのでご注意ください。
- ・ 回転ベゼルを使用するときはセット時間に多少の余裕を持たせ、あくまでも目安としてご利用ください。

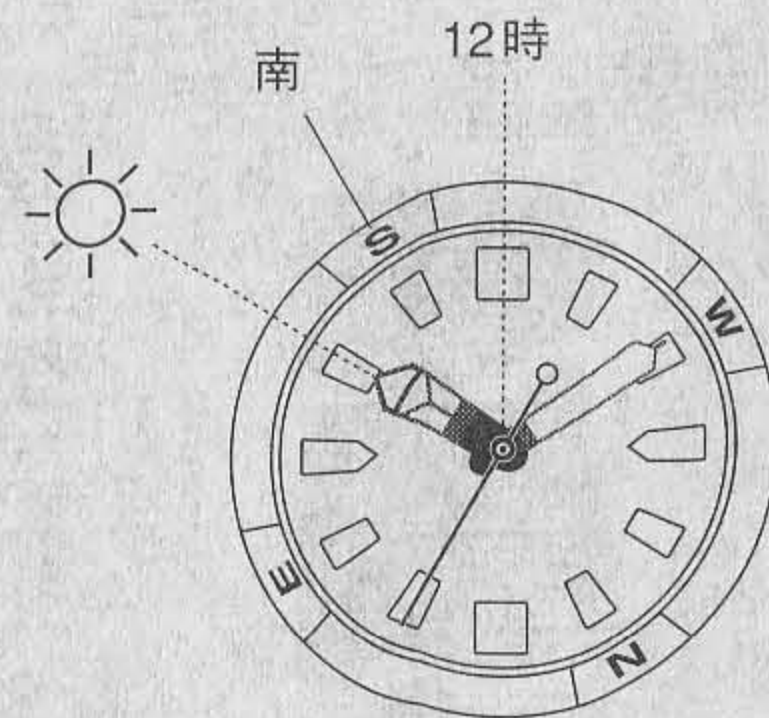
C. 方位計（方位計付きのモデルの場合）

この方位計を使って、太陽の位置を基準にしておよその方位を知ることができます。この方位計は北半球でのみ使用できます。

<方位計の使い方>

文字板面を上にして時計の時針を太陽の方向に合わせます。

時針と文字板の12時位置の中間が、南になりますので、方位計の「S」マークを南位置に合わせることで、およその方角を知ることができます。但し、緯度、季節によって若干のズレがあります。あくまでも目安としてご利用ください。

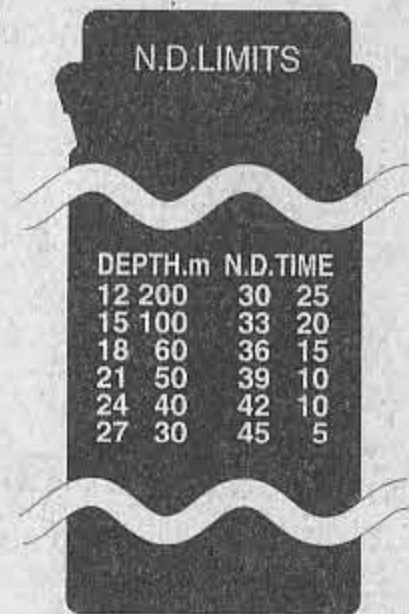


D. 無減圧限界値(No Decompression Limits)

ダイバーが潜水を終えて浮上する途中、減圧のための停止をしないで海面に浮上できる範囲は、潜水深度と潜水時間により決まります。この範囲を示したものが無減圧限界値(No Decompression Limits)です。

この時計のバンドには、米国海軍ダイビングマニュアル(1993年版)に基づいた無減圧限界値(No Decompression Limits)が印刷されています。(モデルにより

No Decompression Limits
(無減圧限界値)



N.D. LIMITS	
DEPTH.m	N.D.TIME
12	200
15	100
18	60
21	50
24	40
27	30

—無減圧限界値の読み方—
DEPTH.m N.D.TIME
(最大深度m) (無減圧時間)

12m		200分
15m		100分
18m		60分
21m		50分
24m		40分
27m		30分
30m		25分
33m		20分
36m		15分
39m		10分
42m		10分
45m		5分

印刷されていないものがあります。)

例)

21mの深さまで潜ったときの潜水時間が50分以内であれば、減圧のための停止をせずに浮上してもよいというようにお読みください。

△ 注意

- ・この無減圧限界値表は1回の潜水のためのものです。
- ・無限圧限界時間は、体調や個人差によって異なります。この時計に印刷されている無限圧限界値は、潜水行動の目安としてのみご使用ください。
- ・減圧停止の必要がある潜水をする場合には、必ず潜水専用マニュアルに従ってください。

20. 電池について

＜電池寿命について＞

この時計の電池寿命は新しい電池を組み込み後約2年です。

使用条件の目安

アラーム：15秒／日

温度計測：3分／日

水深計測：50回／年(1時間／1回)

高度計測：100回／年(連続高度計測：10分、一定時間高度計測：8時間／1回)

*アラームなどの各種機能の使用頻度によって、電池寿命は異なります。

＜最初の電池について＞

お買い上げの時計にあらかじめ組み込まれている電池は、機能や性能を見るためのモニター用電池です。

お買い上げ後、2年に満たないうちに電池寿命が切れることがありますのでご了承ください。

＜電池交換について＞

- ・電池交換はすべて「シチズンサービスセンター修理」となりますので、お買上店を通して、または直接シチズンサービスセンターにご依頼ください。
- ・電池交換の際は、防水検査などのチェック及び、必要に応じてパッキング類の交換も実施します。
- ・電池交換により、ログメモや高度メモなど全てのデータが消えてしまいますので、必要なデータはあらかじめ別の所に記録しておいてください。
- ・電池寿命切れの電池をそのままにしておきますと、漏液などにより故障の原因となります。早めに電池交換を依頼することをおすすめします。
- ・海外で長期間使用する場合は、場所によっては旅行先でアフターサービスが受けられない場合がありますので、お出かけ前に電池交換やメンテナンスを行っておくことをおすすめします。
- ・電池交換及び、それに伴い生じる検査・部品交換は、保証期間内でも有料となります。

21. このような場合には

＜秒針が2秒間隔で動いている場合＞

電池寿命切れが近づいて、電池寿命予告機能が働いています。
このような場合には早めに電池交換をしてください。

＜長時間CHEK(チェック)表示が消えない場合＞

水感知センサーに砂やゴミ、汗などの汚れが付着している為に、水感知センサーが作動し続けていることが考えられます。
このような場合は、水で汚れを洗い流した後、乾いた布で水分を良く拭き取ってください。

＜長時間ER(エラー)表示が消えない場合＞

- ・陸上(海拔4000m以上の高所を除く)での使用中にER表示をしている場合。
- ・潜水終了後、長時間経過してもER表示が消えない場合。

以上のようなときは、圧力センサーの異常が考えられます。
このような場合は、本製品の使用を中止して、お買上店、またはお近くのシチズンサービスセンターへご相談ください。

＜水深計測モードから他のモードへ切り替えることができない場合＞

短時間に気圧の変化がおきる高所環境(飛行機内など)において、汗などによって水感知センサーが働いた状態のまま、1000hPa以上の気圧変化があると、低所(地上)に下りても水深計測表示が0.0mに戻らず、潜水モードを解除できない場合があります。

このような場合は、りゅうずのねじをゆるめてから引き出すと、水深計測モードが解除されます。(りゅうずを引き出すと、アナログ時刻が狂いますので、操作後はアナログ時刻を合わせ直してください。)

＜時計が異常な表示や動作をした場合＞

誤って強い衝撃や強い静電気を時計に加えてしまうと、まれに異常な表示や動作(デジタル表示が狂う、アラームが鳴り続けるなど)をすることがあります。
このような場合には「23. オールリセットについて」を参照してオールリセットを行なってください。

オールリセットを行っても、問題が解決されない場合は、お買上店、またはお近くのシチズンサービスセンターへご相談ください。

22. 末永くご愛用いただくために

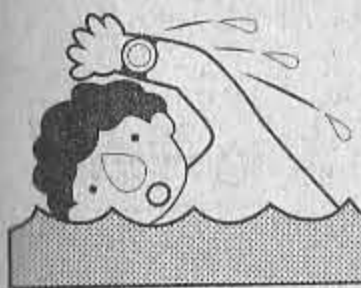
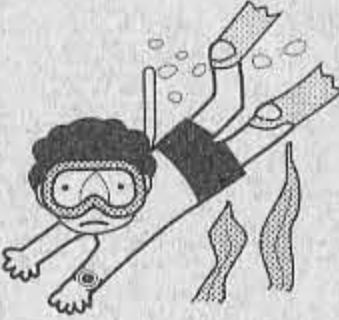
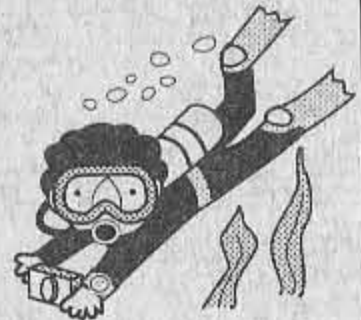
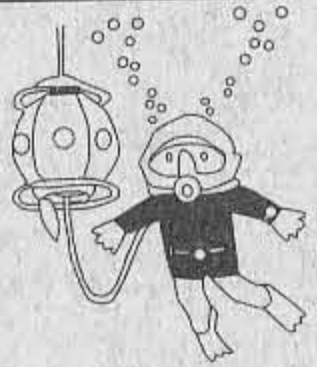
⚠ 警告 防水性能について

この時計は200m防水時計です。空気ボンベを使用した空気潜水(スキューバ潜水)には使用できますが、ヘリウムガスを使用する飽和潜水などには使用できません。

表示	仕様	 水がかかる程度の使用。(洗顔、雨など)
文字板またはケース(裏ぶた)		
AIR DIVER'S 200m	200m防水	○

＜防水性維持＞

防水性能を保つために1～2年毎にお買い上げ店を通して、または直接シチズンサービスセンターで点検をお受けになり、必要に応じてパッキン、ガラス、りゅうずなどの交換を行ってください。

使用例				
 水仕事や、一般水泳に使用。	 スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	 空気ボンベを使用するスキューバ潜水に使用。	 ヘリウムガスを使用する飽和潜水に使用。	 水滴がついた状態でのりゅうずの操作。
○	○	○	×	×

⚠ 注意

- ・ りゅうずは常に押し込んだ状態(通常位置)でご使用ください。りゅうずがしっかりねじ締めされていることを確認してください。
- ・ 水分のついたままりゅうずの操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
- ・ 万一、時計内部に水が入ったり、ガラス内面にクモリが発生し長時間消えないときはそのまま放置せず、お買上げ店を通して、または直接シチズンサービスセンターへ修理、点検を依頼してください。
- ・ 時計内部に海水が入った場合は、箱やビニールに入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が高まり、部品(ガラス、りゅうず、ボタンなど)が外れる危険があります。

⚠ 警告 電池の取り扱いについて

- ・ 幼児の手の届かないところにおいてください
- ・ 誤って電池を電池を飲み込んだ場合には医師と相談して治療を受けてください。

⚠ 注意 この時計の修理について

電池交換を含め、この時計の全ての修理は「シチズンサービスセンター修理」となります。修理、点検の際は、お買上げ店を通して、または直接シチズンサービスセンターへご依頼ください。

⚠ 注意 時計は常に清潔に

- ・ ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
- ・ かぶれやすい体質の人や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれを生じることがあります。異常を感じたら、ただちに使用を中止してすぐに医師に相談してください。

＜時計のお手入れ方法＞

- ・ ケース、ガラスの汚れ、汗、水分は柔らかい布で拭き取ってください。

- ・金属バンド、プラスチックバンド、ゴムバンドは水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで取り除いて下さい。
- ・溶剤類(シンナー、ベンジンなど)の使用は、変質の恐れがありますのでお避けください。

注意 携帯時の注意

- ・幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど充分ご注意ください。
- ・激しい運動や作業を行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、充分ご注意ください。
- ・サウナなど時計が高温になる場所では、火傷の恐れがあるため絶対に使用しないでください。

注意 バンドのお取り扱いについて(着脱時の注意)

- ・バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

＜ナチュライトについて＞

この時計に使用されている夜光塗料「ナチュライト」は、放射線物質などの有害物質を一切含まない人体や環境に安全な蓄光性の物質を使用しています。

この夜光は、太陽光や室内照明などの光を蓄え、暗い所で発光します。

ただし、蓄えた光を放出させるため、時間の経過と共に少しずつ明るさ(輝度)は落ちていきます。また、光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間などによって発光する時間は異なります。

光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。特に潜水時には事前に十分に光を当てるか、水中ライトを併用してご使用ください。

＜温度について＞

- ・-20℃～+60℃から外れた温度下では機能が低下したり、停止することがあります。
- ・常温(+5℃～+35℃)から外れた温度下で長時間放置すると、電池が漏液したり、電池寿命が短くなったりすることがありますのでご注意ください。

＜磁気について＞

- ・磁石には近づけないでください。磁気健康器具(磁気ネックレス・磁気健康腹巻など)、冷蔵庫のマグネットドア・バックの止め具、携帯電話のイヤホン部など、磁気に近づけると時刻が狂います。この場合は磁気から離して時刻修正をし直してください。

＜静電気について＞

- ・クォーツウオッチに使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。テレビ画面などの強い静電気を受けると表示が狂うことがありますのでご注意ください。

＜ショックについて＞

- ・床面に落とすなどの激しいショックは与えないでください。

＜化学薬品・ガス・水銀について＞

- ・化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤及びそれらを含有するもの(ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤など)が時計に付着しますと、変色・溶解・びび割れ等を起こす場合があります。薬品類には充分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

＜保管について＞

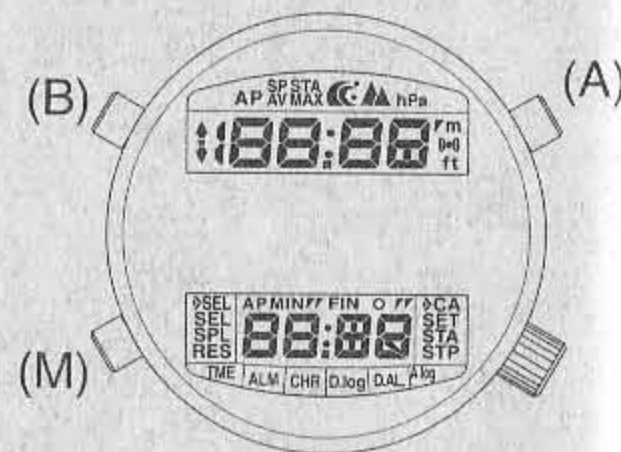
- ・長期間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。また、電池寿命切れの電池を入れたまま長期間放置しますと、電池の漏液により機械部品が損傷する場合がありますのでご注意ください。

23. オールリセットについて

時刻やカレンダーをはじめ、時計の全ての設定を初期の状態に戻します。
時計が異常表示した場合や電池交換後は次のオールリセットを行ってください。

- (1) りゅうずのねじをゆるめた後、りゅうずを引き出します。
- (2) 3つのボタンを同時に押して、離します。
- (3) りゅうずを通常位置に押し込みます。このとき、確認音が鳴ります。
- (4) アナログ時刻を合わせ直した後、りゅうずのねじをきちんと締めます。

これでオールリセットは完了です。オールリセット後は各モードの表示を正しく合わせ直してからご使用ください。



オールリセットを行うと、ログデータ及び高度メモが全て消去されます。必要なデータは、予め別に記録しておいてください。

24. 保証とアフターサービスについて

1. 保証について

正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。

2. 修理用部品の保有期間について

当社は、時計の機能を維持するための修理用部品を通常7年間を基準に保有しております。ただし、ケース・ガラス・文字板・針・バンドなどの外装部品については、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

3. 修理可能期間について

当社の修理用部品の保有期間中は修理が可能です。ただし、ご使用の状態・環境でこの期間は著しく異なります。修理の可否については、現品ご持参の上販売店でご相談ください。なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期精度の復元が困難な場合があります。

4. ご転居・ご贈答品の場合

保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、最寄りの弊社サービスセンターにご相談ください。

5. 定期点検について

安全に永くご使用いただくために、1～2年に一度の定期点検を行ってください。

防水時計の防水性能は、経年劣化しますので、防水性能を維持するために、部品の交換が必要です。必要に応じてパッキングやバネ棒などの交換を行ってください。

部品交換の際は、純正部品とご指定ください。交換だけでなく他の部品の点検または修理を行う必要がある場合もありますので、交換修理料金など、詳しくはお買い上げ店または最寄りの弊社サービスセンターにご相談ください。

6. 電池について

お買い上げの時計に使用されている電池は機能・性能を確認するためのモニター用電池です。お買い上げ後、所定の電池寿命に満たないうちに寿命が切れてしまうことがありますのでご了承ください。

※電池寿命が切れた場合は、保証期間であっても電池交換は有料となります。

7. その他お問い合わせについて

保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または、弊社サービスセンターにご相談ください。

25. 製品仕様

1. 機種…C900

2. 時間精度…平均月差±20秒：常温（+5℃～+35℃）携帯時

3. 水深計精度…±（表示値の3%+30cm）、但し使用温度一定の場合

*精度保証温度範囲：10℃～40℃

（水深計測精度は携帯温度変化の影響を受けます）

4. 高度計測精度…温度一定で高度補正をしたときの精度

高度3000m以下の時：±（高度差の5%+10m）

高度3001m以上の時：±（高度差の8%+10m）

*温度変化による影響（10℃につき）は次の通りです。

高度：最大120m

*標準大気に準じて測定した時の相対精度。

*精度保証温度範囲：-20℃～+40℃

5. 温度計測精度…表示値±3℃

6. ウォッチ作動温度範囲…-20℃～+60℃

7. 表示機能…

- ・時刻：時、分、秒
- ・カレンダー：日、曜(修正時のみ年、月表示)
- ・アラーム：時、分、ON/OFF
- ・クロノグラフ：時、分、秒、1/100秒、スプリットタイム(24時間計)
- ・ログメモ：最新の潜水4回分のログデータ
潜水回数/潜水月日/潜水開始時刻/最大深度/潜水時間/平均深度/最低水温
- ・深度アラーム：1～80m (1m単位)、鳴り回数(0～5回、無制限)
- ・潜水時間アラーム：5～95分(5分単位)
- ・高度メモ：最大6ポイント分のポイントメモ
ポイントNo.(1～6)/メモ月日/メモ時刻(時、分)/高度/気圧/温度/(前回メモとの)高度差及び温度差
- ・サーフェースモード：潜水後の経過時間計測(24時間計)
- ・温度計測：-9.9℃～+40.0℃(0.1℃単位)
- ・高度計測：-300～+6300m(5m単位)

- ・気圧計測：452hPa～1050hPa(1hPa単位)

*気圧表示はあくまでも気圧変化の目安としてご利用ください。

- ・経過時間計測：24時間計(1分単位)
- ・水深計測：1.0m～80.0m(0.1m単位)
- ・潜水時間計測：00分00秒～99分59秒(1秒単位)

- ## 8. その他の付加機能…
- 高度補正機能/気圧変動表示/水感知センサー/浮上速度警告機能/異常深度警告機能/水感知センサーチェック警告機能/電池寿命予告機能/ボタン機能表示

- ## 9. 使用電池…
- リチウム電池 1個

- ## 10. 電池寿命…
- 約2年(新しい電池組み込み後)

電池寿命の条件については「20.電池について」を参照。

*製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。